

## 第2回春日井市子ども読書活動推進計画（第二次）策定委員会議事要旨

1 開催日時 平成22年7月7日（水）午後2時00分

2 開催場所 文化フォーラム春日井 会議室

3 出席者

〔委員〕	企画政策部企画課長	鈴木 満
	文化スポーツ部生涯学習課長	岩田 雪子
	青少年子ども部保育課主幹	木全 恵子
	教育委員会学校教育課長	瀬瀬 伸二
	小中学校長会	伊藤 實資
	小中学校長会	水野 健二
	私立幼稚園協議会	長 昌子
〔事務局〕	教育部長	梶田 博
	図書館長	戸田 富幸
	図書館長補佐	岡嶋 茂雄
	読書推進担当主査	小原 久美子
	資料担当主査	川島 浩資

4 議題

(1) 春日井市子ども読書活動推進計画（第二次）中間案について

(2) パブリックコメントの実施について

(3) その他

5 会議資料

(1) 春日井市子ども読書活動推進計画（第二次）中間案

(2) 春日井市子ども読書活動推進計画（第二次）についての意見

(3) 春日井市子ども読書活動推進計画の施策事業一覧

(4) 春日井市子ども読書活動推進計画見直し予定（変更）

(5) パブリックコメントの実施について

6 議事内容

(1) 春日井市子ども読書活動推進計画（第二次）中間案について

(事務局) 会議資料（1）に基づき説明した。

(委員長) 会議資料（1）9ページに掲載されているアンケート結果では、小学生では学年が進むにつれ親が子供の読書に関わりを持つ割合が低下していることが分かる。この傾向を解消することが、同じ資料9ページの「課題」に掲載されていないのは何故か。

(事務局) 指摘事項に関しては9ページの「課題」に掲載することが適当であるかということも含め、中間案を精査する中で掲載の可否を検討したい。

(委員長) 会議資料（1）10ページに掲載されている「今後5年間で取り組む具体的事業」の殆どが、乳幼児がいる家庭を対象としている点が気になるので再検討して欲しい。

- (A委員) 会議資料(1) 8ページの「現状」に掲載されている内容は、家族に本を読んでもらったり、一緒に本を読んでいると答えた子どもの割合である。学年が進むにつれ一人で本を読む児童は増えるので、この割合が低いからといって読書する児童が少ないとは限らない。なお、当計画に家庭での読書推進を促すための具体的事業が掲載されるのは非常に有意義なことである。
- (B委員) 会議資料(1) 10ページに掲載されている(2)「親子のふれあい読書の推進」と(3)「家庭読書の推進」の違いを教えてください。
- (事務局) 会議資料(1)に掲載されているとおり、「赤ちゃんのためのお話し会」のように親子が一体となつての読書活動は(2)「親子のふれあい読書の推進」に分類されるが、子どもが一人で行う読書を含め家庭での読書を推進するのが(3)「家庭読書の推進」と考えている。
- (A委員) 乳幼児であれば「親子のふれあい読書の推進」と「家庭読書の推進」がイコールになるが、小学生も学年が進むにつれ、この二つを使い分けて表現する必要があるのではないか。
- (委員長) 会議資料(1) 11ページに掲載されているアンケート結果から、「紙芝居とお話しを聞く会」が開催されていることを知らなかった人の割合が高いことが分かるが、「課題」や「取組」では、それを解消するためのPR方法が盛り込まれていない。また、開催日時を変更することで参加者増加につながることもあるので「課題」や「取組」に盛り込むべきではないか。
- (事務局) 本来は同じ場所にまとめられるべきアンケート結果と具体的施策が、中間案では別々の場所に掲載されているケースが見受けられるため、そのような印象につながったと思われる。このことは、全体を見直す中で整理したいと考えている。
- (委員長) 各項目とも「現状」から「課題」、「課題」から「取組」と順を追って掲載されることが、分かりやすい計画には不可欠なので、そのことを再検証して欲しい。また、各施策毎に「めざす目標値」が掲載されているが、これを設定するにあたっての基本的な考え方を教えてください。
- (事務局) 県の計画で数値が示されている施策に関しては、同じ数値を設定した。また、県の計画で数値が示されていない施策に関しては、施策事業一覧で実績を確認し、過去からの数値の伸び率を勘案したうえで、現実的な目標値を設定した。
- (C委員) 会議資料(1) 12ページの「めざす目標値」に登録ボランティア団体数が、現在の13団体から、5年後には15団体との目標値の設定されており、2団体増加しているが、この前後の記載を読む限り、2団体を増加させる裏付けが乏しく唐突な印象を受ける。
- (事務局) 2団体増加を目標値として設定することについて、裏付けが乏しいという指摘を否定することは出来ない。しかし、ボランティア団体との連携を子ども読書活動の推進の重要な要素として考えていることから、希望的数値として設定した。
- (C委員) 目標値で「率」で表しているものと、「数」で表しているものがあるが、どのように使い分けているのか。

- (事務局) 例えば「紙芝居とお話しを聞く会参加率」は、率を算定するとき分母に児童数を設定する。児童数は毎年変化するため、仮に「数」を用いて、現在と5年後を比較すると、同じ数値であったとしても、その数値の持つ意味は違ってくる。このように、「数」を用いることによって、数値の普遍性を保てなくなる施策については「率」を用いている。
- (A委員) 会議資料(1) 11ページに「紙芝居とお話しを聞く会」の参加率に関するアンケートが掲載されているが、殆ど参加しないであろう5年生のアンケート結果も含めて平均が算出されていることに若干の違和感を覚える。
- (D委員) 中学校においても読み聞かせは実施すべき施策であると認識している。そのため、読み聞かせを行っているボランティア団体と中学校との交流を深める施策の実施を期待している。
- なお、会議資料(1) 26ページの「リサイクル本の活用」では、図書館で除籍した本を学校図書館で有効利用を図るとあり、予算が縮減される傾向にある中、この施策は児童・学生の読書活動を支援するうえで非常に有意義である。
- また、公民館やふれあいセンター図書室に配本する図書も、子どもの利用者が多い場所には児童本を重点的に配本する等の工夫が欲しい。
- (A委員) 会議資料(1) 16ページの「めざす目標値」に「読書推進活動の取組実施率」が掲載されているが、現在の中学生の数値が13.3%と小学生の94.9%、高校生の40.0%と比較して極端に低いことが目につく。中学生は「全校一斉の朝読書実施率」では86.7%と高い数字であることから、ここでいう「読書推進活動」とは「全校一斉の朝読書」を除いたものなのか。
- (事務局) 「読書推進活動」と「全校一斉の朝読書」とは区別している。施策事業一覧5・6ページに「学校における読書活動の推進」に関する記載があり「朝読書」と必読書や推薦図書の選定、読み聞かせ等の「読書推進活動」を区別して記載しており、この考え方を中間案においても採用している。
- (A委員) 必読書や推薦図書の選定を実施している中学校は少なくない。そのことを考慮するとこの13.3%という数値は低すぎる印象を受けるので、「読書推進活動」の定義と数値の中身を再確認して欲しい。
- (B委員) アンケート結果からも乳幼児期における読書活動の重要性を認識している保護者は多いと思われる。また、大人へと成長する過程で、乳幼児の頃に身に付けた読書習慣を大切に持ち続ける施策についても検討の必要があると思われる。
- また、中間案の中に、現在普及しつつある電子書籍に関する記載がなされていないが、何か考えがあつてのことか。
- (事務局) 電子書籍をこの計画から排除するという消極的な考え方ではなく、この媒体は普及の度合いや社会での扱われ方が流動的な部分が多いため、あえて今回の計画には盛り込んでいないものの、図書館での取り扱いについて研究を進めていきたい。
- (C委員) 会議資料(1) 24ページ「取組」に「学校図書館の相互貸借システムの検討」と記載されているが、教諭にとっても児童・生徒にとっても春日井市図書館と各図書室のどこにどのような種類の本があるのか、学校図書室に存在するシステムで検索できることが有用であり、学校図書室の限られた蔵書を学校間で相互利用しても、子どもの読書活動を推進するうえでは、あまり効果が期待できないのではないか。

- (事務局) これは、学校間をオンラインで結ぶことを想定しているわけではなく、各学校図書室に所蔵されている図書の目録を作成のうえ公開し、学校図書室の限られた蔵書の有効利用を図るための施策である。
- (C委員) 次に、「レファレンス」等の一般にはなじみの薄い専門用語には、注釈を付けるなどして、理解のしやすい計画にして欲しい。
- (事務局) 一般市民でも計画の内容が理解しやすいように、最終ページに用語解説を付けるなどの対応を考えている
- (E委員) 会議資料(1) 11ページの「紙芝居とお話しを聞く会」に関するアンケート結果で幼稚園・保育園児の保護者の44.2%が「開催されていることは知っていたが参加していない」と回答している。この結果には保護者が参加出来ない時間帯に開催されているという側面も存在するのではないかと。
- (委員長) この会議でも既に述べられた意見であるが、開催日時を検討すべき施策であると思われる。
- (E委員) 会議資料(1) 15ページに新規事業として「読書指導技能の向上」と記載されているが、これは幼稚園・保育園職員を対象とした事業なのか。
- (事務局) これは、図書館が既に実施している、読み聞かせボランティアの方々を対象とした外部講師を招いての講習会に、幼稚園・保育園職員にも参加を呼び掛けることを予定している。
- (F委員) 会議資料(1) 14ページに「保護者等に読書活動の意識啓発」に関する事業案が掲載されているが、これらの事業を実施する際にも、保護者の認知率が低い各図書室での「紙芝居とお話しを聞く会」のPRを実施して欲しい。  
また、先程も出た意見ではあるが、各図書室に図書を配本する際には、各図書室での貸出し傾向や利用者の年齢層を考慮したうえで、有効な配本を心掛けて欲しい。
- (B委員) 「紙芝居とお話しを聞く会」のPRについては、子どもにとって図書館・図書室以上に身近な存在である小中学校で行ってみてはどうか。また、「紙芝居とお話しを聞く会」そのものを小中学校で行ってみてはどうか。
- (事務局) 小中学校を利用する事業の実施は、地域やPTA等が中心となり進めるべき事業であると思われるが、図書館が担うべき役割も少なくないため、連携や協力の方法について検討していきたい。
- (E委員) 「紙芝居とお話しを聞く会」のPRについては、幼稚園・保育園が掲示板や保護者向けのお知らせを利用するなどして行えば、参加率の向上につながるのではないかと。
- (事務局) 本来は図書館側から依頼して行うべき取組みであるが、各幼稚園・保育園において掲示板やお知らせ等のスペースに余裕がある場合には、自発的に掲載をしてももらえるような仕組みを検討したい。
- (A委員) 中間案に掲載されている事業が、実施に向けて各関係機関と調整を図った結果、不採用になることはあり得るのか。
- (委員長) 各関係機関との調整の結果、中間案に掲載された事業がアイデアで終わることもあるが、調整の結果、中間案以上に有意義な事業に進化することもあり得る。いずれにしても、事務局としては実効性を担保した計画にする必要がある。

(2) パブリックコメントの実施について  
(事務局) 会議資料(4)に基づき説明した。

(3) その他  
意見なし

午後3時43分に委員会を終了した。

上記のとおり、第2回春日井市子ども読書活動推進計画(第二次)策定委員会の議事の経過及びその結果を明確にするために、この議事要旨を作成し署名する。

平成22年7月22日

岩田雪子